

岐大通2014

2014 J.League Division 2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

11/15号

第41節 松本山雅 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鑄造

11/15 14:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : 松本山雅 2013 J2 19勝9分14敗 勝ち点66:第7位

松本市内にあった喫茶店『山雅(やまが)』を名前の由来とする「山雅クラブ」は、1975年からスタートした北信越リーグの創設時のメンバーで、一度も長野県リーグに降格することはなかった。2005年から「松本山雅」として強化開始。北信越リーグ1部時代の同県・長野との対決「信州ダービー」は地政学的・歴史的にも激しい対抗意識の現れとなり、映画の題材にもなった。2010年からJFLに昇格し、一昨年からJリーグ参戦。(吉田鑄造)

11/1 (土) 第39節・大雨の降るメモリアルでの大分戦では、2-3で敗戦してしまったFC岐阜。またしても悪い“失点癖”が出てしまった。#9FWナザリトが2得点を挙げて独り気を吐いただけに、悔やまれる敗戦だった。そして続くアウェイ11/9 (日) 栃木戦。前半は互角の試合をしていたが、後半に3失点して0-3の敗戦。自分たちの良いところも出せないままに勝利を献上してしまっただけで、非常に後味の悪い敗戦だった。

これでなんと、チームは泥沼の5連敗。2011年シーズンの7/9(土)第20節から(東日本大震災で延期された第3節を含めて)8/13(土)第24節までの6連敗以来、3年ぶりの出来事だ。そして、6連敗が(過去6年間で3回あるのだが)クラブのワースト記録でもある。順位については18位のまま変わっていないが、勝ち点45で17位・愛媛と19位・群馬の両チームが並んでいる。また、残り2試合で20位の東京Vが勝ち点差7なので、FC岐阜の今シーズンの最終成績は19位以上が確定したが、12位の横浜FCも勝ち点差が7。つまり最終成績13位以下も確定してしまっただけで、13位・水戸から16位・栃木までも、勝ち点差は4以上。つまり残り2試合で1勝1分以上の成績を納めなければ、いわゆる「中位」にはなれない。しかも、その残りの対戦相手は、現在2位の松本と10位の京都だ。大変激しい2試合になるが、しっかりと結果を出して欲しい。

さて、その松本山雅FCは、2年前(2012年)にJ2に昇格してきたばかりだが、シーズン毎に順位を上げ、今シーズンは前々節で2位(=J1自動昇格)を確定させた、勢いのあるクラブだ。また前節も5位・千葉を2-1で破り、歓喜のホーム凱旋を3連勝で飾っている。直近の6試合でも5勝1分、J2優勝を決めた今年の湘南ほど(現在29勝8分3敗)ではないが、現在23勝11分6敗と、3位・磐田との勝ち点差を14と大きく引き離している。岐阜の通算対戦成績は1勝4敗、3得点6失点。2013年シーズンには、4/14(日)第8節にアウェイ・アルウィンで#20新井辰也の2ゴールで2-1の逆転勝利(そしてシーズン初勝利)を挙げたが、それ以外は勝ち点を奪えていない。前回の対戦・4/26(土)第9節でも、#8岩上祐三のFKでゴールを奪われ、0-1で敗戦している。松本には、現在19得点とチーム内得点王としてリーグ2位の得点力を誇る#10FW船山貴之がいる。松本の総得点61点の約3割を叩き出している強力なFWを如何にして止めることが出来るか。また松本は、FKを得意とする#8岩上祐三が8得点を挙げ、DF陣も多く得点しているように、セットプレーからの得点が全ゴールの半分近くを占めている。一方で、パスやドリブルの本数、ボール支配率はリーグでも下位クラス。松本の「縦にボールを出して次々と裏を狙う、走り続けるサッカー」に、岐阜のDF陣が対応できるか。(前節に引き続き)CB#33阿部正紀が累積警告で出場停止のため、前節に3失点した守備陣の立て直しが急務の課題だ。また松本は、#19SB益山司選手にとっては2012年に在籍、#16MF須藤右介は2010~2012年に在籍し、2011年にはキャプテンも務めた古巣だ。普段以上に奮起して活躍して欲しい。

現在の松本は、大量のサポーター動員力が注目されている。今節も近隣かつ土曜開催ということもあり、松本サポーターが大挙して(一説では4000人を超えるという)メモリアルに駆け付け、チームに声援を送ることだろう。しかし、ホーム最終戦を“ホームジャック”させて良いはずがない。このまま負け続けて良いはずがない。僕らFC岐阜サポーターも、負けじと大きな声援をチームに送ろう。その迫力あるスタジアムの雰囲気、きっと選手を勇気づけて、勝利を引き寄せてくれるだろう。

FC岐阜と松本山雅は、隣県同士という事もあり、地域リーグ時代から(公式対戦はなかったが、練習試合や選手の移籍などで)交流もある間柄だ。同じ“緑”をチームカラーとし、同じ(両県の県鳥である)雷鳥がエンブレムだった時期(FC岐阜が2006年まで)もある。J1昇格は松本が先になったが、JFLそしてJ2昇格はFC岐阜の方が先だった。今は逆に差をつけられてしまっているが、彼らをしっかりと見つめながら、しかし安易に真似ることもなく、着実に僕らの歴史をつくっていきたいと思う。

泣いても笑っても、これが2014年シーズンのホーム最終戦だ。今シーズンを気持ちよく締めくくるとともに、そして何より、ホームスタジアムに駆け付ける多くの岐阜サポーターのためにも、連敗をストップさせる試合を、是非とも選手たちには見せて欲しいものだ。松本が昇格し富山が降格したので、来年の「TOP OF 北アルプス」は開催されないだろう。様々な想いを込めて、熱く激しい試合を最後まで応援し、そして目に焼き付けようじゃないか。(ささたく)

2014J2

■順位表■第40節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

| | | | | | | | |
|----|------|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 1 | 湘南 | 95p | +55 | 79 | 22 | H● | A△ |
| 2 | 松本 | 80p | +29 | 61 | 32 | A● | |
| 3 | 磐田 | 66p | +14 | 66 | 52 | H● | A● |
| 4 | 北九州 | 65p | +2 | 49 | 47 | H△ | A● |
| 5 | 千葉 | 62p | +9 | 52 | 43 | H△ | A● |
| 6 | 山形 | 61p | +12 | 54 | 42 | A● | H○ |
| 7 | 大分 | 60p | -3 | 49 | 52 | A● | H● |
| 8 | 札幌 | 57p | +4 | 45 | 41 | A● | H△ |
| 9 | 岡山 | 57p | +1 | 48 | 47 | A● | H△ |
| 10 | 京都 | 56p | +4 | 56 | 52 | H○ | |
| 11 | 長崎 | 52p | +5 | 45 | 40 | H△ | A○ |
| 12 | 横浜FC | 52p | +4 | 47 | 43 | A○ | H● |
| 13 | 水戸 | 50p | +4 | 45 | 41 | A● | H● |
| 14 | 熊本 | 50p | -10 | 41 | 51 | A○ | H● |
| 15 | 福岡 | 49p | -6 | 49 | 55 | H● | A● |
| 16 | 栃木 | 49p | -8 | 49 | 57 | H● | A● |
| 17 | 愛媛 | 45p | -4 | 50 | 54 | A△ | H○ |
| 18 | 岐阜 | 45p | -9 | 51 | 60 | --- | --- |
| 19 | 群馬 | 45p | -10 | 41 | 51 | H○ | A△ |
| 20 | 東京V | 38p | -18 | 28 | 46 | A○ | H○ |
| 21 | 讃岐 | 33p | -35 | 34 | 69 | H○ | A○ |
| 22 | 富山 | 23p | -42 | 27 | 69 | H○ | A△ |

今季も『岐大通』をご愛読いただき
誠にありがとうございました。

また2015シーズンでお会いしましょう。
(とりあえず、来季も発行予定です)

【編集人:吉田鑄造】



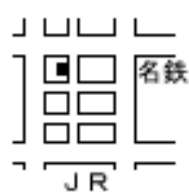
本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど...
心の花が咲く...
何も無い店だけど...
心癒される...
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@
hotmail.co.jp

【第39節】岐阜 2-3 大分

●昨夜からの雨でピッチは相当に悪い状況。この状態に早く対応できた大分とできなかった岐阜。この差が最後まで出てきてしまった気がします。個々の技術的な差なのかもしれませんが…。

大逆転負けを喫した熊本戦以降、すっかりチームの歯車が狂ってしまった印象です。残りはもうあと3試合、ホーム戦は1試合だけ。残りの試合全部勝つつもりで意地を見せてもらいたいのですが。

(岐阜の誇り)

●「誰が？」と「俺が！」。先制されるまでの流れを目の当たりにして、頭をよぎったのがこの言葉。もちろん、実際はウチの選手も必死で対応しようとし、カラダを張ろうとしてファールを取られていたんですが、それでも、ことごとく、と言っていいほどボールが大分側に繋がったのは決して運不運などではなく、集中力と予測の違い。普通ならこう転がるという予想。その安易な発想を嘲笑うかのように止まるボール。逆に、前半の大分ゴール側はスリッピーに流れてしまうんだから選手にとっては厳しすぎるコンディションだったと思う。ただ、前半の自陣は試合前の練習で使った所。ピッチの状態はその時につかめたはずだけだ……。あくまで試合前のアップだから身体を動かすのが優先。そう思うしかないんですかね？確かに、この日のピッチはひどかった。でも、昨季はそうでもなかったけど、それ以前はごく当たり前な、見慣れた雨の長良川。しかし、残念なのは昨季までの経験がある選手は数えるほどで、しかもベンチにはいない。そんな状況では、このピッチの特徴は伝わりませんか？この不良馬場をホーム・アドバンテージにすることは不可能ですか？監督を始めスタッフも想像を超えたピッチ状態だったようですが、選手じゃなくてもそれ以外の関係者が伝えられてたらよかったのに……。そのあたりにも継続というか積み重ねってモノがないのかな、という気持ちも抱いた次第。どうやら、一番雨の長良川を熟知してたのはサポーターだったようですね。教えてあげればよかったのかな？それでも、監督の言葉を借りればプロなんだから、いち早く「勝つための戦術」を選手全員が意識してくれないと。それができていたのが大分で、だから勝ったのは彼らだし、プレーオフを争う位置にもいるんでしょね。大きな差をこの時期になって見せつけられました。

それでも、試合後の選手には拍手をしました。あれほどボールやピッチに翻弄されて、想定外の動きをさせられてたら、後半はバテて動けなくなる。とんでもない結果になるんじゃないかと恐れおののいていたんですが、得点もでき、バー直撃も2本。けっして、どっちかが入っていたら、などとは申しません。決定機は大分にもありました。ただ、トータルでは楽しめたかな、と。もちろん、不満はあります。まあ、楽しめたと表するあたりが、タスキの中にいる者としてどうなのか？そういう自問自答も含めて、なかなか味わい深い試合だったということにしておきます。

大分さんは、もうJ1へ行っちゃってください。大分はイイとこだけど、やっぱり九州のクラブ多すぎ。来季のアウェイは近場が減るんで、その分遠いとこ減らしたい。よろしくお願いします。

(ぐん、)

●大雨のメモリアル。試合が始まるまでは「よし、少し有利かも」って僕は思っていました。だってピッチ状態が悪いんなら、「前に蹴って走る」サッカー、つまりテクニクとか戦術とかの影響は少なくなるから、上位の大分を倒すには良い条件だな、と(苦笑)。ところが、ピッチ状態が悪いのを理解してないのはウチの方で、いつも通りの短いパスを出して(そして案の定ボールが止まって)「ええっ!？」ってビックリ。で、よく考えたら今年の長良川は、ここまで雨が溜まったピッチ

で試合をしていない、そして大分のホームは(申し訳ないけれど)芝の状態が悪いことが多くて、こういう状況に慣れている(苦笑)。こりゃマズイって思っていると、やっぱりその雨で止まったボールでの失点。

それでも、雨が小降りになってきた後半、#30 遠藤→#9 ナザリトのゴールで同点! よーし、ここから! …って思ったのに、FKで相手をフリーにしちゃって2失点目、直後にDFラインの裏を抜かれて3失点目…(溜息)。その後は(やっと)押し込めるようになって、ナザリトのバーを叩く惜しいFKとかもあったし、最後にはナザリトが2得点目を決めただけど、追上げはそこまで。失点が実にもったいない敗戦でした。ナザリトが10試合ぶりのゴールってのと、これで(2009年に佐藤洸一が挙げた)最多16得点に並んだのは嬉しい材料でした。あと3試合、クラブ記録を塗り替えて欲しいものです、はい。

(ささたく)

【第40節】栃木 3-0 岐阜

●最近記憶力が衰えて、開幕した頃の試合は細部が思い出せない。そのうえ、妙なフィルターがかかって実際よりキレイな思い出になりがちだし、最近の試合の方が悪く思いがちになる。だから、以前の試合は割り引いて考えなきゃ。それはわかっている。わかっているけど、栃木戦。特に後半は今季ワーストという評価は一夜明けても変わらなかった。何しろ、この最終盤に来てこれだもん。

それでも、自宅で録画を見ると受ける感じは違ってくる。やっぱり、時間と目線の位置が変わるせいか、現地と印象がズレたりもするね。前半は悪くないというの、決して皮肉やヤケツパチなワケでもないか。それでも、後半は問題外だけど。智大の決定機と深谷のヘッドだけではね。で、またしても元岐阜の選手に決められる、と……。

早く忘れたいんだけど、ナザに収まらないからほかの選手が上げられないし、司も上手く使えないうえにケアされてるし、かといって個人で中央に穴を開けられないとなると、あとはファールをもらってナザのズドンを期待するだけ? 心配された夏の方がもっと走ってたような気がする。

でも、この期に及んで四の五の言ってもらえない。ここ三年のこと考えれば何てこたあない。終わり良ければすべて良し。久しぶりにホーム最終節を勝利で祝いたい。しかも、願ってもない相手だし。最高の締めくくりにしましょうね!

(ぐん、)

●「小雨の降る栃木(宇都宮)は、寒かったです。でも思ってたよりは雨が降らなくて助かりました。餃子は美味しかったです。以上」…で終わらせたくなるような試合でした…(激しい溜息)。確かに雨模様だったけど、前節の大分戦ほどピッチ状態はひどくなかったし、(申し訳ないけど)大分と栃木じゃ選手の力量が違う。だから「今日こそは勝って連敗脱出!」って気持ちでグリスタまでやって来ましたよ、僕は。んで、確かに前半はほぼ互角。ところが、後半に入った途端に相手が一気に押し込んできて、それを受け止めきれないでいる内に、CKを与えて失点。ありゃオウンゴールじゃないかと思う(苦笑)んだけど、#21 GK 太田岳志とDF陣の連携ミスもあったかな…そして、またしても「何故か勢いがなくなってしまう」ウチの選手たち。ホント、ここ数試合の「焼き直し」を見せているような嫌な感覚。「FC岐阜攻略本」が出回ってるんじゃないか? って思えるぐらいに。がっちり引いて自陣を固めた相手に、突破口を見つけられずにボールを回す岐阜の攻撃陣。単調なパス回しに寄せられ、あるいはミスをして、あるいは無理にポジションを崩した際にボールを奪われ、カウンター。2失点目はまさにその形。岐阜のゴール前に栃木の選手の方が多んだもん、そりゃ失点しますよ…(溜息)。しかも、得点者は(2009~2011年に岐阜に在籍していた)

#24 西川優大。一番やられたくない相手にやられてしまうなんて。そしてPKを与えて3失点目。最後には、最近ほとんど試合に出ていなかった(2008～2011年に岐阜に在籍していた)#14 菅和範の「顔見世」興業までやられてしまい、しかも22試合ぶりの無失点試合を献上して、為す術もなく敗戦。そしてトドメに西川をMVPに選んで「古巣だし絶対に負けたくない相手でした」なんて話させるってのも、栃木さんもホント意地が悪いね(苦笑)。

まあ昇格も降格も可能性が無くなったしアウェイだったし「今日は“査定”ゲーム？」って思わなかった訳でもない。だけど、こんな惨敗を見せられると、かなり堪えます。次節はホーム最終戦、恥ずかしい試合で終わらせないでくださいよ！(ささたく)

●11月9日に笠松競馬場で行われた栃木戦のパブリック・ビューイング(以下:PV)に行ってきました。今回のPVは笠松競馬場が10月からJRAの場外馬券発売を開始した事に因み、その協賛として開催された物です。この日も通常に場外馬券売り場として営業している中でPVは開催され、今までに経験した事が無い環境でのものでした。ひょっとしたら競馬場でのサッカーのPV開催は日本初かも知れません(笑)

でも現地に行ってみれば観客席は傾斜が有るので後ろでも見易いし、ゆったり座れるし、屋根は有るので雨には濡れる心配ないし、売店・食堂も営業しているので色々食べれるし、ある意味PVには適した環境じゃないかな?と思いました。私も少し早めに入場してビールを飲みながら串カツや焼きそば、おでん等を堪能し、お店の人ともお話をしたりして楽しんできました。そして帰りには人生3回目の馬券を購入。倍率だけ見て適当に買ったので、当然当たりませんでした(苦笑)。こうして競馬場でのPVをしっかりと楽しんできました。来年も是非開催して欲しいです!

え?試合??覚えが無いな～(爆苦笑)
(ヤックル)

岐阜に『万歳四唱』を伝えた男、 ついに「代表」デビュー。

●FC岐阜では、勝利の際に選手とスタンドのサポーターと一緒に喜ぶときに「万歳三唱」ではなく「万歳四唱」を行います。バンザイを4回。この、日本ではあまり例のない喜びの表現を岐阜に伝えたのは、JFL時代の2007年からJ2・2年目の2009年まで在籍した大友慧でした。なんでも、彼が岐阜に移籍してくる前に所属していたドイツのクラブ(FCライムズバッハ、かな?)でのやり方だったそう。

彼はその後、インドネシア、ミャンマー、タイのクラブでプレー、現在は故郷であるフィリピンのクラブに所属しています(彼は父親が日本人で母親がフィリピン人のハーフ)。そして、2014年11月9日にタイのナコンラチャシマで行われたフィリピン代表vsタイ代表の試合でついにフィリピン代表としてA代表デビューを果たしました。33歳での代表デビューです。

元・FC岐阜の選手で、移籍後にA代表デビューとなったのは、朴基棟(2010年に在籍、2011年に韓国代表としてホンジュラス戦に出場)について2人目となります。
(吉田铸造)

ありがとう、木谷公亮。

●木谷選手、14年間の現役生活お疲れ様でした。昨夏に移籍してきてからDFラインを統率して、引退した服部さんにも『公亮が来て後ろは楽になったよ』と言わしめるプレーぶりでしたね。

今年、松本戦でケガして戦線離脱して、ケガ明けで戻ってきた時のプレーを見た時に『これはひょっとして…』と心の中でうっすら思っていた事が現実になる日が来るとは…。昨年の浅中での鳥取戦でのクロスボールを跳ね返し続けるプレーや、神戸戦でのゴールが非常に印象に残っています。貴方が岐阜に来てくれてなかったら、岐阜は今頃J2に残っていただかなかったかもしれませんから。1年半本当にありがとうございました。

(岐阜の誇り)

●昨年途中に岐阜に移籍してきてくれた木谷選手。昨年後半の胃がキリキリするような残留争いの中でディフェンスラインを統率してくれてとても頼もしかったです。今年は完全移籍して貰えて又ガンガン活躍して貰えると喜んでいたので……。

今日も含めて残り2試合。笑顔で終えたいですね。14年間にも及ぶ選手生活、お疲れ様でした。

(ヤックル)

●「またJ2をよく知る経験豊富なプレーヤーが引退しちゃうのか…」彼の引退の報に接した時にまず最初にこう思った。今の仙台の礎を築いたプレーヤーであり、鳥栖の堅守を支えてJ1昇格に大きな貢献をしたプレーヤーでもある。そして言うまでもなく昨季の我が軍J2残留のキーパーソンである。言わばJ2の酸いも甘いも噛み分けた名手だったと思う。だから願わくばその経験から生まれる何かを是非違ったカタチで見てみたいなど思っている。国土館大でも大宮でも仙台でも鳥栖でも、もちろん我が軍でもいい。ただただフットボールの現場でもう一度彼が見たい。

だからサヨナラは言わない。待つとるよ。木谷。

(マツヒラ)

【ホーム最終節恒例】今季のベストゴール、ベストゲーム、MVP

◆ベストゴール

●第1節、ナザリト(2点目)

開幕戦、2点目のナザリトのFK直接。あれで我々サポーターの度肝を抜いたのは言うまでもありません。

(岐阜の誇り)

新戦力ナザが岐阜サポへの挨拶代りに魅せてくれたゴールは、目の覚めるようなFK弾。これ一発でサポのハートをがっちり掴んだ一撃だった。説明不要のビューティフルゴール。FKを直接決めたのはJ2昇格以降では片桐、森安について3本目かな。頼むから来期もここに居てくれ!

(cruyff)

ええと…今年は(これまでに)51得点も見てるんだから、色々あるはずなんですけど…数が多くて印象が薄くなってるのかな(苦笑)。思い出すのに頑張った結果、(8/31(日)第29節・東京V戦の高地の切り返しからのシュートとも迷いましたが)開幕戦3/2(日)にナザリトが“ご挨拶”とばかりに決めた見事なFKゴールにします。実にセンセーショナルなJデビュー戦でした。

(ささたく)

●第2節、高地系治

ルーキー阿部ちゃんからの縦パスを受けてからの個人技。「敵の時にあんだけイヤだった選手が味方になるとこんなにも頼もしいのか～」と、その技術に感服しましたです。

(吉田铸造)

●第20節、遠藤純輝

開幕戦のナザリトのFKや高地のルーレットも捨てがたいけど、地元出身だし、今後の期待も込みで。もっと、決めてくれっ!

(ぐん)

◆ベストゲーム

●第2節、ホーム 岐阜 3-0 富山

相手にほぼ何もさせることなく 3-0 と完璧な試合運びだったので。

(岐阜の誇り)

●第11節、アウェー 東京V 0-1 岐阜

ゴメンナサイ、消去法です。3-0 だったホームでの富山戦とか、東京V戦、開幕戦とかは相手が……だったし、愛媛戦は劇的だったけど自作自演みたいなどこあるし。PKを10人で守り抜いたアウェイ横浜戦もシビレたけど、「最後の国立勝利者」という付加価値込みで。

(ぐん)

●第29節、ホーム 岐阜 3-0 東京V

完勝だった。自分で直接見た試合の中では、2009年第3クールのアウェイ富山戦以来かな、この完勝劇。次々とチャンスを作り出し3ゴールを奪い、一方でほとんどピンチらしいピンチは無し。さらにパスワークで面白いように相手をきりきり舞いさせた。今までパスを回される立場は数限りなく経験したが、うちのチームがパス回しで相手を翻弄するとは想像できなかった(苦笑)。ただこの内容が次のホーム札幌戦ぐらまでしか続かないところが問題なだけだね。

(cruyff)

こっちはすぐ決めました。8/31(日)第29節・東京V戦です。「野菜の日 のうりんコラボマッチ」というクラブの新たな試みと、ラモス監督の古巣・ヴェルディに3-0の完勝という最高の試合結果で選出。なお次点は「最後の国立」5/3(土)第11節・東京V戦、第三席は「ザ・バカ試合」、大逆転の8/10(日)第26節・愛媛戦(4-3)です(笑)。

(ささたく)

12勝もしておいて『ベストゲーム』に選べる試合って、そう多くない(苦笑)。「『第41節、ホーム松本戦』しかねーじゃん！」と予約しておきたいところだけど、そうもいかない(笑)。付加価値込みでアウェーの東京V戦(『最後の国立での勝利者』だった←『最後の国立公式戦』はJ1の甲府vs浦和だったけどスコアレスドローだった)かな〜と思ったけど、やはりここはホームの東京V戦に。地元岐阜を舞台にしたライトノベル&アニメ『のうりん』とのコラボ、モデルとなった加茂農林高校の生徒さん達の「青春を賭けた」イベント、そして試合はヴェルディを完全に凌駕した(ウチが傑出してよかった…というわけでもないのだが(苦笑))3-0の勝利。FC岐阜の試合が『まつり』の空間になっていたし、これから他の団体や業者さんに「FC岐阜の試合は『使える!』」と思ってもらえたのではないかと、という部分をこめて。

(吉田铸造)

◆MVP

●No.6 高地系治

野田恭平の元同僚であるこの男、鳥栖や横浜時代に対戦し「気の効いた」選手だとは認識していた。しかし一緒に戦ってみてその凄さを思い知らされた。「巧くて賢い」すごい選手だった。例えばその巧さ。第2節富山戦では阿部の縦パスを受けた瞬間ルーレットでDF二人をかわし、そのままドリブルでキーパー前まで突っ込み、しかし滑ってくるDFを余裕のボールタッチでかわしゴールを決めてくれた。例えばその賢さ。第29節東京V戦での2点目は高地が相手からボールを奪ったところからのカウンターで決めたものだが、ボールを奪い圭輔にパスを出す直前突然動きを止めタメを作り、相手DFが圭輔にマークを変えることを遅らせ、結果として圭輔をよりフリーな状態にしてみせた。ピッチの状況を瞬時に判断し、その時必要な動きをすぐ実行できる賢さに思わず唖ってしまった。さすがはカリオカが全幅の信頼をおく男である。

(cruyff)

●No.15 ヘニキ

その圧倒的な『高性能掃除機』ぶりに驚嘆。あまりに高性能であるがゆえに「吸わなくていいモノまで吸い込んでしまう」かのように警告も多かったけど、それは普段からの掃除を怠った(←局面での守備で彼に依存し過ぎた)から……も、あるか。そのあたりが修正されれば、来季はもっと警告も減ると思うのだけど……いてくれれば(苦笑)。

(吉田铸造)

●No.19 益山司

ナザリト、高地、能活と候補は他にもいるというか、クラブの公式ではこの中から選ばれそうだけど、こちら地元元卒で。シーズン当初はベンチにも入らなかったけど徐々に頭角を現して、いつのまにか替えの効かない存在に。彼がボールを持つとチャンスになりそうな気がするし、右でも左でも強いシュートの撃てるSBってそんなにいなさそう。ずっと、岐阜にいてね!

(ぐん)

●No.22 川口能活

難波、ナザリトと迷いましたが、ここはやはりキャプテン川口でしょう。シーズン通してチームの支柱となったのは間違いありません。

(岐阜の誇り)

●No.33 阿部正紀

「今年はCBが多いなー」って思ってたシーズン前。ところが次々と故障離脱する中、開幕から(出場停止の試合以外は)ずっとスタメンとして、ルーキーイヤーながら素晴らしい活躍でした。「プロ選手になれなかったかも」とかって話も聞きましたが、よくぞ獲得したよフロントってのと、来季以降の更なる飛躍も期待して、MVPを差し上げたいです。

(ささたく)

●スタッフの方々

P(=Player)を「チームに参加している人=所属している人」と解釈して、今季のMVPは「恩田社長を筆頭とするチームのフロントの皆さん」に捧げたいと思います。これまで在籍していた方が昨シーズン後にポロポロ辞められるのを聞いて「これってゼロからじゃなくてマイナスからのスタートじゃね?」と正直心配していました。ところがシーズン当初は無難にスタートできたと思っていたら、シーズン途中からは怒涛の企画ラッシュ。牛や熊、しまいにはヘリまで動員しての企画実行力には正直参りました。来年もこの調子(笑)で宜しくお願いします。そしてハードワークで倒れないで下さいね(最敬礼)

(ヤックル)

今季の、来季のFC岐阜へ。

●今季は不甲斐ない試合が多すぎます。来季は先制されても逆転できる、がむしゃらに勝ちきる試合をぜひお願いします。(テラ@翠魂)

●毎年のことなんですけど、2月には「ああ、今年も長いシーズンが始まるなあ…」って思ってるのに、いつの間にかホーム最終戦、『岐大通』も今シーズン最終発行号です。やっぱり今シーズンは、リーグ戦が始まるまで(というか、昨シーズンの終わり頃から)の“大騒ぎ”が凄かったですよね(苦笑)。長年の懸案事項だった累積債務が、藤澤信義さんが支援していただいた(そして岐阜の財界も支援を決めてくれた)おかげで解消され、ホント僕は肩の荷が下りた気になりました。そして、ラモス瑠偉が監督になるなんて、去年の僕が聞いたら「新卒の詐欺か?」って思うに決まっています(笑)。そして川口能活が来るわ三都主が来るわ、他にも数々の大型補強…。本当に予算は大丈夫なのかな?ってのは、実は今でも(今季の決算が出るまで)少し心配です(苦笑)。

さて、今年のチームをデータで見えます。過去5年間（いずれも2014年は第40節現在）の勝率は、

| | | | | | | | | |
|-------|------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| 2010年 | 36試合 | 13勝 | 06分 | 17敗 | ・勝点 | 36 | (勝率 | 0.36) |
| 2011年 | 36試合 | 06勝 | 05分 | 25敗 | ・勝点 | 23 | (勝率 | 0.17) |
| 2012年 | 42試合 | 07勝 | 14分 | 21敗 | ・勝点 | 35 | (勝率 | 0.17) |
| 2013年 | 42試合 | 09勝 | 10分 | 23敗 | ・勝点 | 37 | (勝率 | 0.21) |
| 2014年 | 40試合 | 12勝 | 09分 | 19敗 | ・勝点 | 45 | (勝率 | 0.30) |

です。勝利数も勝率も、(当然ですが)2010年以来の数値になってます。またJ2でも降格制度が始まった2012年シーズンから最速で残留を決めたのも、印象深いです。同じく過去5年間の、1試合あたりのチームの得点および失点は、

| | | | |
|-------|--------|--------|----------|
| 2010年 | 0.89得点 | 1.25失点 | 14 / 19位 |
| 2011年 | 1.03得点 | 2.18失点 | 20 / 20位 |
| 2012年 | 0.63得点 | 1.30失点 | 21 / 22位 |
| 2013年 | 0.88得点 | 1.91失点 | 21 / 22位 |
| 2014年 | 1.28得点 | 1.50失点 | 18 / 22位 |

です。だから、得失点でも数値はそこそこ良いんです…でも、なんか今シーズンが良かったようには(個人的には)思えない。それは、(全42節を4分割してみても)直近の第4四半期の9試合で1勝1分7敗、6得点17失点という成績のためなんだろうと思います。つまりシーズン終盤に勝てない、得点も出来ていないのが、ストレスになってるんだろうな、と。他チームにしっかりと研究されてるといえるのか、あるいはうちのチームの“積み上げ”が不足してるのかは判りませんが、もちろん、あと2試合ありますから、しっかりと得点して勝ってほしいものです。

来季は、更なる選手補強を…とも考えたくありませんが、あえて僕は「堅実な支出を」とお願いしたいです。やっと累積債務が解消されたのに、無理して選手補強して再び…なんていうのは岐阜の行政・財界も流石に許してくれないでしょう。恩田社長、よろしくお祈りします。

もちろん恩田社長への交替も印象深い出来事でした。薫田社長(現・会長)の功績も忘れてはませんが、累積債務が解消されて「攻めの運営」が出来るようになったのも大きいと思いますが、恩田社長や新スタッフによる、若く新しい感性での経営で「予想の斜め上を行く(笑)」仕掛けで楽しませていただきました。「のうりんコラボ」や「笠松競馬場PV」なんて、今まで想像もしなかったイベントでした。

今年はフロントの努力もあって、観客入場者数も、ファンクラブ・後援会の会員数も増え、経営が安定しつつあるかと思えます。専用グラウンド・専用クラブハウスなど練習環境の整備を求める「ぎふJ1チャレンジ」も始まり、(まだ確定ではないですが)その実現も近づきつつあります。Jに昇格して7年。今年も少しずつ、しかし着実に“FC岐阜”が大きくなっていることを、数多くの方々の努力への感謝と共に、シーズンが終わりに近づいて(この記事を書いていると)毎年しみじみと感じます。

さて来季のFC岐阜はどうなっているのかな?それは毎年、本当に楽しみです。僕は、少しずつでも着実に、地域に根ざしたクラブとして、大きくなっていくのが嬉しいです。僕もその為に微力ながら尽力を…と、その前にあと2試合、しっかりとね!(笑)

(ささたく)

●今季の岐阜について。

早い時期に最低限のノルマ「残留」を決めてくれたのはよかった。終盤は正直がっかりした部分もあるけど、開幕戦から3点も取ってくれて、やっぱり得点が決まるってのはスゴイなと感じた次第。見に来てくれる人も話題に挙げてくれる人も増えたんで、この流れを大事にしたい。

来季の岐阜について。一時期は目標の10位も狙える位置に

いたけど、いつのまにか急降下。結局、勝てる試合をドローにしたり、ドローの試合で負けたりして勝ち点を落としたのが原因。勝てる試合で負けたりもしたか(苦笑)。

最後まで攻める試合もイイが、それはリーグ戦という長丁場を戦う上でどうなのか。ゲームを閉じる力、マネジメントのスキルも上げてほしい。

(ぐん、)

●テーマは『Off the Edge』。

これまでのFC岐阜は、チームは“残留”、クラブは“存続”と絶えず『On the Edge』だった。「刃の上」即ち「危険にさらされている」状態。それが今季は劇的に変わった。スポンサー様の大きな支援、著名な監督の招聘、とてつもない実績を持つ選手達の大規模な補強、クラブの「攻める」企画の数々。テレビ用語で言う『つかみ』は完璧だった。全国経済紙に「入場者7割増」と特集も組まれた。先日の笠松競馬場での栃木戦PVのように、JRA場外発売開始のイベントに『使われた』ことは、FC岐阜が「使える」コンテンツになったことの嬉しい証左でもある。

しかし、来季は状況が変わる。『Off the Edge』という“変化”で売れるのは今季まで。来季は、本来の商品である「サッカー」を売らないといけぬ。その視点で今季の戦いぶりを見ると、高い評価は出来ない。現時点で7位の大分と18位の岐阜を比べてみると、得失点の差は6しかないのに勝ち点差は15。順位差は11。その差はもちろん「試合を勝つ能力」の不足に起因する。今季の岐阜は、ゲーム内容は『On the Edge』のままだったのだ。

来季に向けては、この点の修正を最重要項目にしてほしい。『J1チャレンジ』を真に「オン・ターゲット」にするために。そして、再びチームやクラブが『On the Edge』に戻らないために。

(吉田鑄造)

編集人から一言。

●寒くなってきたなあ……と思ったらホーム最終節です。木谷選手、美尾選手の引退発表。岐阜のために、ありがとう。お疲れ様でした。また、長良川でFC岐阜のユニを着ているのを視るのが最後になってしまう……という選手もいるでしょう。そういう季節でもあります。

過去にも何回か書いているかと思いますが、そもそもの『岐大通』発行のきっかけは、クラブにマッチデープログラムを発行する余裕すらなかったJFL時代に、「サポとして何かスタジアムを盛り上げる手を打てないか」という話し合い(という呑み会)の場で出たアイデアでした。

それから8年、とにかく今年は状況が変わりました。シーズンチケット先行入場分の『岐大通』の配布を終えると、一般入場の列に並ぶ皆様にも配布を始めるのですが、そのあまりのお客さんの多さに「配布担当が足りない!」という事態に。“嬉しい悲鳴”という形容がありますが、マジで“悲鳴”でした。クラブは数々のイベントを打ち、広報活動も派手に行き、それは入場客数の増加として確実に効果が出ています。

『岐大通』の役目は終わったのではないかな?

……と思うこともあります。というか、発行当時の役目は確実に「終わった」のだと思います。

しかし、クラブやチーム体制が大きく変わっていく中でも、変わらないでやっていくものがあってもいいのかな?という思いで、来季も続けていく予定でありますので、読者の皆様は1年間のご愛顧に感謝しつつ、よろしくお祈りいたします。順調にいけば、来季には『岐大通』は発行通算150号に到達するはずですよ。

(編集人:吉田鑄造)

